高校生の心身の現状とその背景：症状・生活・生育環境・性格・考え方の実態

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>古田 瑞穗・鳥越 恵治郎・山本 静枝・黒田 優子</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要</td>
</tr>
<tr>
<td>号</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>285-297</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>2008-01-31</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://id.nii.ac.jp/1219/00000191/">http://id.nii.ac.jp/1219/00000191/</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
高校生の心身の現状とその背景
症状・生活・生育環境・性格・考え方の実態

古田 瑞穂，鳥越恵治郎
山本 静枝，黒田 優子

How and why do high-school students nowadays in Japan feel and act?: characters, ways of thinking and living, and growing environments reflects in their bodily complaints

Mizuho FURUTA, Keijiro TORIGOE
Shizue YAMAMOTO, Yuko KURODA

はじめに

本研究は、地域も全く異なるところで異なった研究をしている者が、「高校生」や「学生」に接する中で共通した問題に遭遇したことに端を発する。

本研究メンバーの一人は、20年にわたり学校医として「今時の子ども」を観察する機会に恵まれてきた。その間、彼らの心身の変化や社会への適応について明らかに憂える状況が増えてきたことを肌で感じている。しかし、訴える症状を調査し出現率を観察しても原因をつかむことが難しく、適切に生徒へのアドバイスに生かすことができなかった。

また、一人は体育の立場にあり、授業時に不調を訴える学生を観察する中で、その人の性格や生育環境などの要因によって、特別に意識される特有の身体の部分や症状があるのではないか、と感じてきた。

そして、もう一人は母性看護の立場から、子どもが示す様々な心身症状は、家庭内に要因があるのではと感じてきた。

ところで、日本の子どもの体の変化について正木は、1975年頃から我が国の青少年の体格は向上しているにもかかわらず、背筋力が低下しているとの現象を取り上げ、からだのしおしさについて発達不全や不調から研究を行っている（正木 2002）。また文部科学省が実施している日本の青少年の体力・運動能力測定の結果もこの20年間前年度を上回る年はなかった。このように日本人の青少年では、体力・運動能力において低下傾向である。これらの実態は、生活環境の変化から、身体を使う遊びや運動が減少したことに起因していると分析されている（宮下 2006，2007）。

また、心の問題としては青少年の不定愁訴・うつ関連症状等も心身医学会（1991）で研究が進められている。しかし、心と身体の両面から子どもたちの「変化」についてアプローチしている研究

1）医療法人恵真会鳥越病院　2）岡山県立井原高校　3）愛媛県立医療技術大学

285 ページ
まだ少ない。
そこで、本研究では、発育発達の終盤期である高校生について、「心や身体」に関わる現象を定量化して捉えることを1つの目的としている。さらに、その原因について考察するために、背景要因として性格、考え方、生活、生育環境に着目し、心身に起こっている問題との関連性を明らかにしたい。

方 法

調査方法：質問紙による調査を実施した。
鶏飼料の発育発達に関する指導で、ホームルーム時に一斉に各教室で、各自書くとして実施した。
期日：平成15年7月
対象：岡山県立高校全学年461名
　男子229名（1年77名、2年73名、3年79名）
　女子232名（1年80名、2年82名、3年70名）
時間：15～20分
集計方法：集計は業者に委託し、データを入力し、3回の他人による確認チェックを行った。
質問項目と数：(表1参照)
　1．生育環境、通学状況（13）
　2．食事・睡眠・便通（12）
　3．自覚症状（全身、皮膚、筋肉、骨格、顔面、目、耳、鼻、口、頭部、頚部、肩、胸部、腹部、泌尿器系、精神症状）（58）
　4．性格や考え方（20）
　5．日常生活（5）
　6．社会生活（5）計113項目
分析方法：1．度数分布による分析
　2．平均値による性の比較分析
　3．因子分析による要因分析
　4．心身症状と他の要因の相関分析

結果と考察

1．質問項目について
心身の症状を問う質問項目は多々見られるが、特に大きなサンプルが得られるのは、国民生活基礎調査の「健康調査」（厚生労働省）である。この調査は毎年実施されているが、健康調査は3年
ごとに「健康票」として調査項目に加えられ、実施されている。近年では平成10、13、16、19年度である。

そのうち、心身にあらわれる自覚症状を問う質問は41項目である。本研究の自覚症状を問う質問項目は、さらに詳しくなり58項目となっている。本研究の質問項目は、本研究の一員である医師が独自に症状と疾患を整理したうえで、全体の症状と各身体の部分に分けて質問を作成した。高校生について焦点を絞ったため、対象の年齢層が広い前述の「健康調査」では実態をつかみにくいことと、他の年齢層との比較を試みても目的が達成されないと考えたからである。

また、心身症を発症する原因には社会生活上の様々なストレスが知られている。青少年期の子どものストレス原因としては家族・友人・教師などとの人間関係や、学業成績、現代の生活様式の急激な変化への対応など社会的要因、身体発育と精神的成熟との調和で代表される生理的要因があると言われている（二宮 2000）。また、ストレスをストレスとするかどうかというストレス耐性は、子ども自身の素質、性格、発達段階に起因している（二宮 2000）。このことをふまえた上で、性格や考え方、生活環境などの質問項目を設定した。

2. 度数分布による全体の分析と、平均値による性別の比較

表1に調査の結果の度数分布を百分率で示している。また結果の右半分に、性別に平均値での比較を示している。アンケートの答えの選択肢は、「ない」、「ほとんどない」、「普通」、「時々ある」、「いつもある」の5段階である。平均値での比較は、「ない」を1とし、「いつもある」を5と点数化して求めた。

（1）生徒環境・通学状況

体罰を受けたことのない生徒は約60%であり、「ほとんどない」を含めると約76.5%となった。「いつも」、「時々」は13.5%であった。手伝いについては、約40%がありませんていないようである。勉強しろと言われるのは約30%である。

悩みを打ち明けられる先生はないと約55%が答えている。有意義な性教育を受けていないと約半数が感じているようだ。家族根ざって食事ができていないが41%であった。遅刻やズル休みはほとんどない。

男女で有意に差が見られたのは4項目であり、女子の方が体罰が少なく、親の手伝いをし、友人や親と日常生活の話題についてよく話している様子である。

（2）食事・眠り・便通

朝食を食べない生徒が16%あった。睡眠では1日あたり6時間未満と答えたのは「時々」も含めて約40%であった。8時間以上は17.4%であった。また女子で男子より睡眠時間が有意に少なかった。便通に関しては正常より便秘傾向の生徒がやや多く、男子より女子のほうが有意に多かった。

（3）身体の調子

1）全身症状はおおむね良好であるが、微熱を訴える生徒がやや多いように思われる。また、汗がきが約50%にものぼり、自律神経系（交感・副交感神経系とも）が常に緊張状態におかれている。
### 表1-1 質問項目と度数分布および性別にみた平均値

<table>
<thead>
<tr>
<th>質問項目</th>
<th>ほとんどの</th>
<th>普通</th>
<th>いつもある</th>
<th>欠損値</th>
<th>女子 mean</th>
<th>S.D.</th>
<th>N</th>
<th>男子 mean</th>
<th>S.D.</th>
<th>N</th>
<th>P</th>
</tr>
</thead>
</table>
<パート1：成育環境・通学状況>  |           |      |            |        |         |      |   |         |      |   |    |
1. あなたは自身を含めて何人兄弟・姉妹ですか | 2.2       |      |            |        | 3.3     | 0.7  | 232| 3.3     | 0.9  | 227 |
2. 子ども時代（18歳未満）に、体罰もあっては | 3.9       |      |            |        | 1.5     | 1.0  | 222| 2.0     | 1.3  | 221 |
3. 子ども時代に、父母または家族の仕事の手伝いを私が | 1.3       |      |            |        | 3.0     | 1.3  | 229| 2.9     | 1.3  | 226 |
4. 子ども時代に、勉強を助けることを口かましく言わ | 0.7       |      |            |        | 2.4     | 1.3  | 231| 2.9     | 1.5  | 227 |
5. 学校で友人を恥じていると思う | 0.0       |      |            |        | 2.0     | 1.1  | 232| 2.3     | 1.2  | 229 |
6. 親が子供ごとの相談相手になる | 0.7       |      |            |        | 3.0     | 1.2  | 230| 3.4     | 1.2  | 228 |
7. 学校の先輩で悩みを打ち明ける先生がいる | 0.7       |      |            |        | 3.7     | 1.1  | 230| 3.8     | 1.2  | 228 |
8. 有意義だったと自分で感じる学校教育を10歳まで | 0.7       |      |            |        | 3.5     | 1.0  | 227| 3.7     | 1.2  | 228 |
9. 毎日朝食と夕食を家族揃って食べる | 0.4       |      |            |        | 3.1     | 1.4  | 232| 3.0     | 1.4  | 227 |
10. 留守に守っているのは母親あるいは祖母である | 1.1       |      |            |        | 2.6     | 1.6  | 232| 2.9     | 1.7  | 228 |
11. 留守に守っているのは父あるいは祖父である | 0.2       |      |            |        | 3.9     | 1.4  | 231| 3.9     | 1.4  | 229 |
12. 学校を後延する | 0.2       |      |            |        | 1.5     | 0.9  | 232| 1.6     | 1.1  | 228 |
13. 学校をテスト休ませる | 0.4       |      |            |        | 1.3     | 0.8  | 231| 1.4     | 1.0  | 228 |
<パート2：食事・睡眠・通院>  |           |      |            |        |         |      |   |         |      |   |    |
14. 朝食はしっかり食べている | 0.2       |      |            |        | 1.8     | 1.2  | 232| 2.0     | 1.3  | 228 |
15. コンビニ弁当、レトルト食品、ジャンクフードなど | 0.7       |      |            |        | 1.7     | 0.9  | 231| 1.9     | 1.0  | 227 |
16. 食事が多く3食・朝・昼・夕食の区別がない | 1.1       |      |            |        | 1.8     | 1.1  | 231| 1.8     | 1.1  | 225 |
17. 一週間の平均睡眠時間は平均睡眠時間を | 0.0       |      |            |        | 3.2     | 1.4  | 232| 2.7     | 1.5  | 229 |
18. 一週間の平均睡眠時間は平均睡眠時間を | 0.4       |      |            |        | 2.1     | 1.2  | 232| 2.3     | 1.4  | 227 |
19. 寝覚の10分以内には眠りについている | 0.2       |      |            |        | 2.6     | 1.4  | 232| 2.8     | 1.4  | 228 |
20. 寝覚の10分以内には眠りについている | 0.4       |      |            |        | 1.8     | 1.1  | 232| 1.7     | 1.0  | 227 |
21. 朝早く目覚める、あるいは熟睡感がないなどの | 0.2       |      |            |        | 2.6     | 1.3  | 231| 2.7     | 1.3  | 229 |
22. 目覚めても起き上がるのは5分以内である（寝起 | 0.1       |      |            |        | 2.3     | 1.4  | 232| 2.2     | 1.4  | 228 |
23. 便秘気味（自覚として3日以上、通院がない） | 0.2       |      |            |        | 2.2     | 1.3  | 232| 1.4     | 0.9  | 228 |
24. 下痢症状（自覚として）1週以上、通院がある | 0.4       |      |            |        | 1.4     | 0.8  | 231| 1.4     | 0.9  | 229 |
25. 交互に下痢と便秘を繰り返している | 0.2       |      |            |        | 1.4     | 0.8  | 231| 1.3     | 0.8  | 229 |
<パート3：体の調子について>  |           |      |            |        |         |      |   |         |      |   |    |
(1) 全身症状について  |           |      |            |        |         |      |   |         |      |   |    |
26. からだがだるくて起き上がるのが苦労する | 0.7       |      |            |        | 1.8     | 1.1  | 231| 1.7     | 1.1  | 227 |
27. 微熱（自覚として37.0~37.3 Courtneyが平均値） | 0.0       |      |            |        | 1.6     | 1.0  | 232| 1.6     | 1.0  | 229 |
28. 汗をかきやすい | 0.0       |      |            |        | 3.4     | 1.3  | 232| 3.2     | 1.5  | 229 |
29. のどが渇く | 0.2       |      |            |        | 3.0     | 1.2  | 232| 2.8     | 1.3  | 228 |
30. 食欲不振、 |
31. 皮膚下にだたまりあるいはしおれが多発する | 0.0       |      |            |        | 1.8     | 1.2  | 232| 1.5     | 1.0  | 229 |
32. めまいまたは立ちきりをおぼえる | 0.0       |      |            |        | 1.3     | 0.9  | 232| 1.3     | 0.8  | 229 |
33. 突然に全身の力がなくなると急激な発作を覚える（意 | 0.0       |      |            |        | 2.6     | 1.4  | 231| 2.0     | 1.3  | 229 |
34. 一時的に意識が失われた \(P \leq 0.05) \(P \leq 0.05) \(P \leq 0.05) 
35. 突然の冷汗（ひ pymysql)とともに気分が悪くなる | 0.0       |      |            |        | 1.5     | 0.9  | 227| 1.3     | 0.8  | 229 |
(2) 皮膚、筋肉、骨格の症状について  |           |      |            |        |         |      |   |         |      |   |    |
36. 皮膚に浮腫あるいはしおれがある | 0.9       |      |            |        | 1.6     | 1.1  | 232| 1.4     | 0.9  | 229 |
37. 少し走っただけでもすぐに疲れる | 0.0       |      |            |        | 2.0     | 1.2  | 232| 1.3     | 0.8  | 229 |
38. 自我中筋骨痛を伴う（徐療・運動療法によるもの | 0.0       |      |            |        | 1.9     | 1.3  | 232| 1.5     | 1.0  | 229 |
39. 皮膚や関節痛を伴う（徐療・運動療法によるもの | 0.0       |      |            |        | 1.5     | 1.0  | 232| 1.4     | 0.8  | 229 |
40. 手や足がしびれる痛みを感じる | 0.0       |      |            |        | 1.3     | 0.8  | 231| 1.4     | 0.9  | 229 |
41. 手や足の筋力に弱くなったと感じる | 0.0       |      |            |        | 1.6     | 1.1  | 232| 1.5     | 1.0  | 229 |
42. 頭痛が投げ飛ばされる | 0.0       |      |            |        | 1.4     | 0.9  | 230| 1.4     | 0.9  | 229 |
<table>
<thead>
<tr>
<th>質問項目</th>
<th>女子</th>
<th>男子</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>mean</td>
<td>S.D.</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>31</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>32</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>35</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>36</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>38</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>39</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>41</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>42</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>43</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>44</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>45</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>46</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>47</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>48</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>49</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>50</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>51</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>52</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>53</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>54</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>55</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>56</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>57</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>58</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>59</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>60</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>61</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>62</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>63</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>64</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>65</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>66</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>67</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>68</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>69</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>70</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>71</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>72</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>73</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>74</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>75</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>76</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>77</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>78</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>79</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>80</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>81</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>82</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>83</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

---

*P < 0.001  **P < 0.01  *P < 0.05
<table>
<thead>
<tr>
<th>質問項目</th>
<th>ほとんどない</th>
<th>普通</th>
<th>いつも</th>
<th>欠損値</th>
<th>女子 mean</th>
<th>S.D.</th>
<th>N</th>
<th>男子 mean</th>
<th>S.D.</th>
<th>N</th>
<th>P</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>パート4: 性格や考え方について</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>84. 偏つと気い、あるいはひ弱だと思う</td>
<td>41</td>
<td>19.1</td>
<td>18.0</td>
<td>12.1</td>
<td>7.6</td>
<td>2.2</td>
<td>2.4</td>
<td>1.3</td>
<td>230</td>
<td>2.1</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>85. 僕侶だと思える</td>
<td>38.8</td>
<td>18.9</td>
<td>23.4</td>
<td>10.4</td>
<td>6.3</td>
<td>2.2</td>
<td>2.3</td>
<td>1.2</td>
<td>230</td>
<td>2.2</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>86. 無責任だと思う</td>
<td>32.8</td>
<td>21.0</td>
<td>22.8</td>
<td>13.9</td>
<td>7.2</td>
<td>2.4</td>
<td>2.4</td>
<td>1.3</td>
<td>229</td>
<td>2.4</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>87. だらしないと思う</td>
<td>23.6</td>
<td>21.9</td>
<td>22.8</td>
<td>17.4</td>
<td>11.9</td>
<td>2.4</td>
<td>2.9</td>
<td>1.3</td>
<td>229</td>
<td>2.5</td>
<td>1.4</td>
</tr>
<tr>
<td>88. 人にをするにも気力が湧かない</td>
<td>43.2</td>
<td>19.7</td>
<td>16.5</td>
<td>11.5</td>
<td>7.2</td>
<td>2.0</td>
<td>2.3</td>
<td>1.3</td>
<td>230</td>
<td>2.1</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>89. 顧問だと思う</td>
<td>33.6</td>
<td>16.5</td>
<td>24.3</td>
<td>14.1</td>
<td>9.1</td>
<td>2.4</td>
<td>2.7</td>
<td>1.3</td>
<td>230</td>
<td>2.2</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>90. 攻撃的である (あるいは逆らうやすい)</td>
<td>40.8</td>
<td>21.9</td>
<td>20.4</td>
<td>9.8</td>
<td>5.0</td>
<td>2.2</td>
<td>2.1</td>
<td>1.2</td>
<td>229</td>
<td>2.2</td>
<td>1.2</td>
</tr>
<tr>
<td>91. 我慢が足りない (あるいは欲望を抑制できない)</td>
<td>32.1</td>
<td>23.9</td>
<td>20.8</td>
<td>14.8</td>
<td>6.5</td>
<td>2.0</td>
<td>2.5</td>
<td>1.2</td>
<td>230</td>
<td>2.2</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>92. 動揺や努力はきらい、あるいははしくない</td>
<td>25.8</td>
<td>23.4</td>
<td>24.7</td>
<td>12.6</td>
<td>11.3</td>
<td>2.2</td>
<td>2.7</td>
<td>1.3</td>
<td>229</td>
<td>2.5</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>93. 自由・きたままである</td>
<td>14.3</td>
<td>17.6</td>
<td>28.0</td>
<td>18.9</td>
<td>19.3</td>
<td>2.0</td>
<td>3.2</td>
<td>1.3</td>
<td>230</td>
<td>3.0</td>
<td>1.4</td>
</tr>
<tr>
<td>94. 難断力がないと思う</td>
<td>20.6</td>
<td>21.3</td>
<td>21.7</td>
<td>20.8</td>
<td>13.0</td>
<td>2.6</td>
<td>3.0</td>
<td>1.3</td>
<td>228</td>
<td>2.7</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>95. 時間を守らない。在、時間ルーズだ</td>
<td>38</td>
<td>21.5</td>
<td>20.2</td>
<td>11.5</td>
<td>6.7</td>
<td>2.2</td>
<td>2.3</td>
<td>1.2</td>
<td>231</td>
<td>2.2</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>96. 自尊感情が強い</td>
<td>39</td>
<td>18.2</td>
<td>29.5</td>
<td>8.0</td>
<td>3.0</td>
<td>2.2</td>
<td>2.1</td>
<td>1.1</td>
<td>229</td>
<td>2.2</td>
<td>1.2</td>
</tr>
<tr>
<td>97. 物事へのこだわりや執着がある</td>
<td>24.5</td>
<td>18.9</td>
<td>31.0</td>
<td>13.2</td>
<td>10.2</td>
<td>2.2</td>
<td>2.6</td>
<td>1.2</td>
<td>229</td>
<td>2.7</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>98. 人間関係 (人づくかい)で悩む</td>
<td>33.6</td>
<td>19.7</td>
<td>21.0</td>
<td>12.6</td>
<td>10.8</td>
<td>2.2</td>
<td>2.7</td>
<td>1.4</td>
<td>229</td>
<td>2.2</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>99. 一人でいる心が気持ちが落ち着く</td>
<td>20.2</td>
<td>21.7</td>
<td>25.6</td>
<td>15.8</td>
<td>14.5</td>
<td>2.2</td>
<td>2.8</td>
<td>1.3</td>
<td>229</td>
<td>2.9</td>
<td>1.4</td>
</tr>
<tr>
<td>100. 聞いても理解できないのがノートやレジュメをみればよく理解できる</td>
<td>29.3</td>
<td>25.8</td>
<td>33.8</td>
<td>6.1</td>
<td>2.2</td>
<td>2.8</td>
<td>2.2</td>
<td>0.9</td>
<td>227</td>
<td>2.3</td>
<td>1.1</td>
</tr>
<tr>
<td>101. 人間は非の場に忠実である</td>
<td>46.2</td>
<td>16.3</td>
<td>21.9</td>
<td>7.8</td>
<td>5.6</td>
<td>2.2</td>
<td>2.0</td>
<td>1.2</td>
<td>229</td>
<td>2.1</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>102. 人間は非の場に忠実である</td>
<td>53.4</td>
<td>16.5</td>
<td>21.0</td>
<td>4.8</td>
<td>2.2</td>
<td>2.2</td>
<td>1.8</td>
<td>1.0</td>
<td>229</td>
<td>1.9</td>
<td>1.1</td>
</tr>
<tr>
<td>103. 人間の本性は善だと思う</td>
<td>20</td>
<td>9.8</td>
<td>46.0</td>
<td>9.8</td>
<td>11.9</td>
<td>2.9</td>
<td>3.1</td>
<td>1.1</td>
<td>228</td>
<td>3.3</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>パート5: 日常行動</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>104. 一日数時間以上コンピュータ・ゲームをしている</td>
<td>74.4</td>
<td>12.6</td>
<td>6.7</td>
<td>2.2</td>
<td>2.2</td>
<td>2.0</td>
<td>1.2</td>
<td>0.6</td>
<td>230</td>
<td>1.6</td>
<td>1.1</td>
</tr>
<tr>
<td>105. 絵画や映画を好きで毎日を過ごしていない</td>
<td>47.7</td>
<td>18.4</td>
<td>12.6</td>
<td>9.5</td>
<td>9.8</td>
<td>2.0</td>
<td>3.8</td>
<td>1.4</td>
<td>230</td>
<td>3.9</td>
<td>1.4</td>
</tr>
<tr>
<td>106. 力仕事やスポーツが好きで一日3時間以上体を動かしている</td>
<td>57.3</td>
<td>18.2</td>
<td>11.9</td>
<td>7.2</td>
<td>3.3</td>
<td>2.2</td>
<td>4.6</td>
<td>0.9</td>
<td>229</td>
<td>3.9</td>
<td>1.2</td>
</tr>
<tr>
<td>107. 家ではほんやりと自分の部屋にひどりぐちか</td>
<td>39.5</td>
<td>22.1</td>
<td>16.9</td>
<td>9.8</td>
<td>9.5</td>
<td>2.2</td>
<td>2.3</td>
<td>1.4</td>
<td>229</td>
<td>2.2</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>108. 友人など人との意思疎通の手段はおもしろい</td>
<td>30.4</td>
<td>19.5</td>
<td>19.7</td>
<td>13.2</td>
<td>15.2</td>
<td>2.0</td>
<td>2.9</td>
<td>1.4</td>
<td>229</td>
<td>2.4</td>
<td>1.4</td>
</tr>
<tr>
<td>パート6: 社会意識</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>109. 親分な人に対する敬意は持つ人が居る</td>
<td>8.5</td>
<td>8.2</td>
<td>23.4</td>
<td>25.8</td>
<td>31.9</td>
<td>2.2</td>
<td>2.1</td>
<td>1.1</td>
<td>229</td>
<td>2.6</td>
<td>1.4</td>
</tr>
<tr>
<td>110. 自分のことをーン一杯で他人にすることを考える余裕はない</td>
<td>21</td>
<td>23.6</td>
<td>34.5</td>
<td>13.7</td>
<td>5.0</td>
<td>2.2</td>
<td>2.6</td>
<td>1.1</td>
<td>229</td>
<td>2.5</td>
<td>1.2</td>
</tr>
<tr>
<td>111. 他者やこれを考えず、その事ののぎで過ごしている</td>
<td>18</td>
<td>21.7</td>
<td>31.7</td>
<td>14.8</td>
<td>11.3</td>
<td>2.6</td>
<td>2.8</td>
<td>1.2</td>
<td>228</td>
<td>2.8</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>112. 社会のおしどりや社会の法を含む位置付けについて考える</td>
<td>29.1</td>
<td>20.8</td>
<td>27.3</td>
<td>11.7</td>
<td>8.7</td>
<td>2.4</td>
<td>2.5</td>
<td>1.2</td>
<td>228</td>
<td>2.5</td>
<td>1.3</td>
</tr>
<tr>
<td>113. 男女の実生活では平等ではないと思う</td>
<td>22.1</td>
<td>11.5</td>
<td>32.5</td>
<td>16.3</td>
<td>15.4</td>
<td>2.2</td>
<td>3.0</td>
<td>1.3</td>
<td>229</td>
<td>2.8</td>
<td>1.4</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表1-3 質問項目と度数分布および性別にみた平均値

のように推察される。湿疹などの訴えは少ない。33から35の質問項目はパニック発作、自律神経失調症、解離性障害などを視野に入れての質問であったが、「ない」「ほとんどない」で約10%である。むくみや立ちくらみなどは女子で訴えが多い。この原因は不明であるが思春期は女性に多くの生理的負荷をかけているかもしれない。

2）皮膚、筋肉、骨格については概ね正常な状態である。じつしも、皮膚に訴える生徒は予想よりも少ない。皮膚に関して女子が男子よりも有意に多く訴えているのは打撲に伴うあざ（紫斑・皮下出血）であったが、実際の出現頻度が多いというよりも美容上の問題から、彼女たる意識が男子を上回ったと思われる。また、腰痛も女子の方が訴えが多いが月経痛の可能性が推測される。

□ 290 □
3）頸部より上部についても概ね正常な状態である。46は花粉症を想定しての質問だが、27％ほど訴えがある。48は慢性副鼻腔炎を想定した。約20％と予想に比して多いのは花粉症と一部重複していると思われる。鼻出血は頻度は少ないが、男子の方が女子より多い。視力低下が女子に多い。鼻滴の長さが影響しているのだろうか。鼻もとも携帯電話の画面を見続けるためだろうか。耳鳴りの頻度が女子に多い。しかし耳鳴りの原因・病態は多様であり女子に多い理由はよくわからない。頭痛や肩こりの訴えは女子に多い。これは緊張性頭痛の症状と考えられる。緊張性頭痛が長時間のデスクワークや前かがみ姿勢、精神的ストレスなどで誘発されることを考慮すると、女子のほうが学校生活に対して男子より真摯にとりくんでいるのかも知れない。また視力低下や月経痛などと関連しているのかもしれない。

4）胸部の症状については訴えが少なく、心臓・肺に関して概ね正常な状態であると考えられる。

5）腹部の症状についても訴えは少ない。ただし女子で腹痛を訴える頻度がやや高いが、過敏性腸症候群などのストレス障害や常習性便秘症・月経痛などのあるものと推定される。

6）泌尿器系の症状については訴えが少ない。

7）精神症状では統合失調症・難性うつ病・人格障害を示唆する訴えはない。しかし悩みは多く、受験へのストレス、勉強の能率が上がらない、イライラするとの訴えが多い。いじめの訴えが男子に多くみられた。

全身の症状を観察すると概ね良好のようであり、この回答からは、深刻な様子は見あたらなかった。多くが普通に学生生活を過ごしている生徒であり、慢性疾患・精神疾患などで長期治療中の生徒がいなかったためであろう。訴えている症状は、女子では月経に関しての症状が目立つように思われた。

（4）性格や考え方

「時々」、「いつも思う」を併せ30％を超えた項目は、「自由・気ままである」38％、「決断力がない」33％、「1人でいる方が落ち着く」30％であった。また、「人間の本性は善でない」と反応した者は「ない」、「ほとんどない」を含め30％であった。平均値をみると、女子の方が男子に比べて自分のことを「だらしない」、「頑固だ」と思っている。また、「我慢が足りない」や「決断力がない」についても有意性は低いが女子より女子のほうが高い。そして、女子の方が男子より対人関係で悩んでいるようすが伺える。

（5）日常行動

66.1％が「読書があまりできていない」、75.5％が「1日3時間以上運動するようなことはない」、28.4％が「メールをよく利用している」といった傾向が見られた。男女間では、男子の方が「1日3時間以上コンピュータ・ゲームをする」、「1日3時間以上身体を動かす」で女子より有意に多くなかった。

（6）社会意識

「目上の人に敬う態度で接するべきだと思う」は「いつも」、「時々」をあわせて57.7％がそう
思っているようで、特に男子で多くみられた。「社会のありさまや自分の社会における位置づけなどについて考える」は「いつも」、「時々」をあわせて49.9％と約半数が答えている。また、「男女は実質的に平等ではないと思う」では、31.7％が「いつも」、「時々」と答え、女子の方が男子より有意に多かった。

以上がおおまかな実態である。4）から6）の項目をまとめると、まず性格や考え方では、自分自身のことを、自由気ままで、決断力がなく、だらしない、頑固、我慢が足りず、決断力がないという生徒がそれぞれ約30％あり、人の本性は善ではないと思っている生徒が約30％いる。否定的な考え方の者がも見受けられるが、質問項目に自分のことを明るいと思っているなどといった肯定的な項目を入れていたために現れた現象かもしれない。あるいは、30％しか自分を否定的に取っていないともとれる。

日常行動では、「読書をしていない」、「身体を動かすことをあまりしていない」ことについて注目される。受験のために、それ以外の活動が制限されているのであろうか。身体を動かすことで適度に疲労し、良い睡眠につながり睡眠回復へとすすむという寝食の自然の循環がうまく保たれないような生活環境なのである。

社会意識では、目上の人に敬意をもって接するといった考えが存在していた。社会における自分の位置や、男女の実質的な平等について関心を払っているところは、社会人へと移行していく時期の青少年の心の情景が伺える。

3．因子分析による要因分析

次に身体の症状に影響を及ぼすと考えられる要因との関係をみるために、4）から6）の「性格や考え方」、「体育環境・通学状況」、「食事・睡眠・便通」の3グループについて、それぞれ因子分析（主因子法）を行った。分析では、因子抽出、バリックス回転の後、因子数の決定を行った。

（1）性格や考え方について（表2）

4因子が抽出（累加寄与率55.5％）された。グループ化された項目から判断して、第1因子から順に、「わがまま」因子、「人間は一人だ」因子、「プライド」因子、「弱虫」因子と名付けた。

（2）体育環境・通学状況について（表3）

5因子が抽出（累加寄与率57.3％）された。第1因子から順に「家庭環境」因子、「通学」因子、「しつけ・親子関係」因子、「人との関わり」因子、「兄弟」因子と名付けた。

（3）食事・睡眠・便通について（表4）

5因子が抽出（累加寄与率65.5％）された。第1因子から順に、「便通」因子、「睡眠時間」因子、「寝起き」因子、「食事」因子、「睡眠質」因子と名付けた。

4．心身症状と他の要因との相関分析

先の因子分析で、それぞれ因子ごとに個人の因子得点を求めた。そして、各症状の訴えとの関連性を明らかにするために相関分析を行った。症状は、各部位ごとにまとめた合成点を使用した。
### 表2 性格や考え方についての因子分析

<table>
<thead>
<tr>
<th>因子の名前</th>
<th>番号</th>
<th>尺 度</th>
<th>因子負荷量</th>
<th>最終推定値</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>わがまま</td>
<td>87</td>
<td>だらしないと思う</td>
<td>0.466</td>
<td>0.684</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>88</td>
<td>何をするにも気力がわからない</td>
<td>0.346</td>
<td>0.583</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>90</td>
<td>攻撃的である（逆上しやすい）</td>
<td>0.276</td>
<td>0.493</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>91</td>
<td>我慢が足りない</td>
<td>0.406</td>
<td>0.58</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>92</td>
<td>勤勉努力はきらい</td>
<td>0.693</td>
<td>0.611</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>93</td>
<td>自由・きままである</td>
<td>0.621</td>
<td>0.582</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>94</td>
<td>決断力がないと思う</td>
<td>0.292</td>
<td>0.399</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>95</td>
<td>時間を守らない、時間にルーズだ</td>
<td>0.349</td>
<td>0.398</td>
</tr>
<tr>
<td>人間は一人だ</td>
<td></td>
<td>一人でいる方が気持ちが落ち着く</td>
<td>0.019</td>
<td>0.520</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>100</td>
<td>聞いても理解できないのがノートやレジュメ</td>
<td>0.008</td>
<td>0.381</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>101</td>
<td>一人間は所詮一人だ</td>
<td>-0.015</td>
<td>0.342</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>102</td>
<td>頭の中は見えないので、自分は人を信じない</td>
<td>0.001</td>
<td>0.692</td>
</tr>
<tr>
<td>ブライド</td>
<td>89</td>
<td>頑固な思い</td>
<td>-0.019</td>
<td>0.412</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>96</td>
<td>自尊感情が強い</td>
<td>-0.003</td>
<td>0.558</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>97</td>
<td>物事へのこだわりや執着がある</td>
<td>-0.117</td>
<td>0.634</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>103</td>
<td>人間の本性は善とは思わない</td>
<td>-0.036</td>
<td>0.276</td>
</tr>
<tr>
<td>昆虫</td>
<td>84</td>
<td>優しき親,あるいはひ弱だと思う</td>
<td>-0.165</td>
<td>0.615</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>85</td>
<td>高校生だと思う</td>
<td>0.086</td>
<td>0.673</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>86</td>
<td>無責任だと思う</td>
<td>0.280</td>
<td>0.670</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>98</td>
<td>対人関係で悩む</td>
<td>-0.223</td>
<td>0.614</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>番号</td>
<td>寄与率（％）</td>
<td>累積寄与率（％）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>99</td>
<td>0.35</td>
<td>7.7</td>
<td>6.7</td>
<td>5.7</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 表3 生育環境・通学状況の因子分析

<table>
<thead>
<tr>
<th>因子の名前</th>
<th>番号</th>
<th>尺 度</th>
<th>因子負荷量</th>
<th>最終推定値</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>家庭環境</td>
<td>6</td>
<td>親が悩み相談する相手になってくれる</td>
<td>0.730</td>
<td>0.604</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>7</td>
<td>学校の先生で悩み相談をうかがわれる先生がいる</td>
<td>0.688</td>
<td>0.526</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>8</td>
<td>有意味な考えが自分の生活に影響を与える</td>
<td>0.648</td>
<td>0.479</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>9</td>
<td>毎日の朝食、夕食を家族揃って取っている</td>
<td>0.537</td>
<td>0.394</td>
</tr>
<tr>
<td>通学</td>
<td>12</td>
<td>学校で遅刻する</td>
<td>-0.00034</td>
<td>0.788</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>13</td>
<td>学校をズル休みする</td>
<td>-0.078</td>
<td>0.802</td>
</tr>
<tr>
<td>しつけ・親子</td>
<td>2</td>
<td>子供時代18歳以前に体罰をうけた</td>
<td>-0.089</td>
<td>0.539</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>子供時代に、親はあなたを守ろうと手伝った</td>
<td>0.064</td>
<td>0.583</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>子供時代に親が手伝って手伝われた</td>
<td>0.048</td>
<td>0.390</td>
</tr>
<tr>
<td>人との関わり</td>
<td>5</td>
<td>兄の友と親友になった</td>
<td>0.168</td>
<td>0.584</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>10</td>
<td>留学を守っているのは母親あるいは祖母である</td>
<td>-0.038</td>
<td>0.599</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>11</td>
<td>留学を守っているのは父親あるいは祖父である</td>
<td>0.03</td>
<td>0.578</td>
</tr>
<tr>
<td>兄弟</td>
<td>1</td>
<td>兄弟、姉妹の人数</td>
<td>0.057</td>
<td>0.682</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>番号</td>
<td>寄与率（％）</td>
<td>累積寄与率（％）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>16.8</td>
<td>30.3</td>
<td>49.4</td>
<td>57.3</td>
</tr>
</tbody>
</table>

□ 293 □
表4 食事・睡眠・便通の因子分析

<table>
<thead>
<tr>
<th>因子の名前</th>
<th>番号</th>
<th>尺度</th>
<th>因子負荷量</th>
<th>終指定値</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>便 通</td>
<td>23</td>
<td>便秘気味</td>
<td>0.623 - 0.122 - 0.06 - 0.093 - 0.17</td>
<td>0.565</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>24</td>
<td>下痢気味</td>
<td>0.719 - 0.003 0.051 0.024 - 0.048</td>
<td>0.628</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>25</td>
<td>交互に下痢と便秘を繰り返している</td>
<td>0.801 - 0.115 - 0.007 - 0.001 - 0.093</td>
<td>0.743</td>
</tr>
<tr>
<td>睡眠時間</td>
<td>17</td>
<td>睡眠時間は6時間未満</td>
<td>0.064 0.761 0.003 0.112 0.017</td>
<td>0.668</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>18</td>
<td>睡眠時間は8時間以上</td>
<td>0.083 - 0.813 - 0.076 0.054 0.056</td>
<td>0.733</td>
</tr>
<tr>
<td>睡 起 生</td>
<td>19</td>
<td>10分以内に覚醒していない</td>
<td>- 0.018 0.098 0.086 - 0.009 - 0.15</td>
<td>0.817</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>20</td>
<td>60分たっても覚醒していない</td>
<td>0.029 - 0.028 0.752 0.004 0.29</td>
<td>0.747</td>
</tr>
<tr>
<td>食 事</td>
<td>14</td>
<td>朝食は食わない</td>
<td>0.001 0.318 0.165 0.653 - 0.197</td>
<td>0.538</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>15</td>
<td>コピーニン当・レトルト食品・キャンプ袋が常食</td>
<td>0.046 - 0.071 - 0.138 0.679 0.05</td>
<td>0.571</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16</td>
<td>食事が多く三食との区別がない</td>
<td>- 0.117 - 0.086 0.001 0.686 0.181</td>
<td>0.575</td>
</tr>
<tr>
<td>睡 眠 質</td>
<td>21</td>
<td>睡眠不足と思う</td>
<td>- 0.081 - 0.07 0.057 0.07 0.775</td>
<td>0.672</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>22</td>
<td>寝起きが悪い</td>
<td>0.076 0.023 - 0.007 - 0.011 0.686 0.597</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

寄与率（％）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>寄与率（％）</th>
<th>累計寄与率（％）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>寄与率</td>
<td>21.7 13.5 11.2 10.1 9.0</td>
<td>65.5</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(1) 症状と性格や考え方との関係

表5には、症状と「性格や考え方」因子得点との相関係数で有意であった項目の有意水準を示している。

「わがまま」因子の得点の高い者は、だるいなどが身全体の症状のみ反応した。

「人間は一人だ」因子の高い者は、全身、胸部、腹部および精神に反応し、身体全体および腰・下腹部（こし・はら）（斉藤 2000）あたりが気になっているようだ。

「プライド」因子の高い者は、皮膚・筋肉・骨格、頭から上まで、精神で反応しており、人の目を気にしておりがよく表れていると考えられる。

「弱虫」因子の高い者は、全身およびすべての部位で何らかの症状を訴え、弱々しい印象である。「わがまま」因子の得点の高い者が全身だけに反応しているとは、対照的である。

このような性格や考え方の違いによって、意識される症状や身体部位は異なる傾向が見られた。

今回の結果では生徒の性格や考え方方、身体のある特定の部分に自覚症状として出現することが示された。

心と身体をめぐる問題は、多くの分野で研究が進んでいる。からだ気づき（原田 1999, 久保ら2001, 奈良 2004), 身体論や教育学（斉藤 2000), また、ヨーガやピラティス, アレキサンダー, フェルデンクリスなどのボディワーク, 医学・心理学からのアプローチと様々である。今後は学際的な研究が深められることが望まれる。

(2) 症状と性格や生活環境・通学状況との関係

表6には、症状と「生活環境・通学状況」因子得点との相関係数で有意であった項目の有意水準を示している。

「通学」因子、「しつけ・親子関係」因子の得点の高い者が、多くの部位で症状を訴えていた。家庭環境の整っている生徒は全身, 肌肉, およ生物理症状で有意な相関関係がみられたものの,
表5 症状と性格や考え方因子（得点）の相関分析の結果（有意水準のみ）

<table>
<thead>
<tr>
<th>部位 / 因子</th>
<th>わがまま</th>
<th>人間は一人だ</th>
<th>プライド</th>
<th>弱虫</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>全 身</td>
<td>0.05</td>
<td>0.05</td>
<td></td>
<td>0.0001</td>
</tr>
<tr>
<td>皮膚・筋肉・骨格</td>
<td></td>
<td></td>
<td>0.01</td>
<td>0.0001</td>
</tr>
<tr>
<td>肩 から 上部</td>
<td></td>
<td></td>
<td>0.05</td>
<td>0.0001</td>
</tr>
<tr>
<td>胸 部</td>
<td>0.01</td>
<td>0.05</td>
<td>0.05</td>
<td>0.05</td>
</tr>
<tr>
<td>腹 部</td>
<td>0.05</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>泌 尿 器</td>
<td></td>
<td></td>
<td>0.05</td>
<td>0.0001</td>
</tr>
<tr>
<td>精 神 症 状</td>
<td>0.05</td>
<td>0.05</td>
<td></td>
<td>0.0001</td>
</tr>
<tr>
<td>全 体</td>
<td>0.01</td>
<td>0.01</td>
<td></td>
<td>0.00</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表6 症状と生活・通学状況因子（得点）の相関分析の結果（有意水準のみ）

<table>
<thead>
<tr>
<th>部位 / 因子</th>
<th>家庭環境</th>
<th>通学</th>
<th>親子関係</th>
<th>人との関係</th>
<th>兄弟</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>全 身</td>
<td>0.01</td>
<td>0.001</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>皮膚・筋肉・骨格</td>
<td></td>
<td>0.001</td>
<td>0.01</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>肩 から 上部</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.01</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>胸 部</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.05</td>
<td>0.05</td>
<td>0.05</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>腹 部</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>泌 尿 器</td>
<td>0.05</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.01</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>精 神 症 状</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.05</td>
<td>0.05</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>全 体</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表7 症状と食事・睡眠・便通因子（得点）の相関分析の結果（有意水準のみ）

<table>
<thead>
<tr>
<th>部位 / 因子</th>
<th>便通</th>
<th>睡眠</th>
<th>睡眠質</th>
<th>食事</th>
<th>睡眠質</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>全 身</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>皮膚・筋肉・骨格</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.01</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>肩 から 上部</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.01</td>
<td></td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>胸 部</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.05</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.01</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>腹 部</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
<td></td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>泌 尿 器</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.001</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>精 神 症 状</td>
<td>0.01</td>
<td>0.001</td>
<td></td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>全 体</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.0001</td>
<td>0.0001</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

基本的には良好である。彼らは整った生活環境のなかで、その平和状態を維持するために彼らなりに社会的ストレスと戦っているのかもしれない。それに対し、通学因子の「遅刻やずる休みをする」といった生徒はすべての身体部位に明らかな自覚的問題を持っているようだ。

親子関係では、厳しい、またその逆の甘い、無関係な双方で多くの症状がみられる。人との関係因子で得点の高かった者は、胸部や泌尿器で有意に相関関係がみられたが、基本的に良好のようである。

兄弟因子では、胸部症状のみで有意な相関関係がみられた。

生育環境や通学状況の因子は家庭内の状況を知る項目として設定したが、しつけや親子関係で問
題のある者，基本的な生活習慣で問題のある者が，多くの身体部位で症状を訴える傾向にあった。

（３）症状と性格や食事・睡眠・便通との関係

表7には，食事・睡眠・便通因子の因子得点との相関分析の結果を示している。

便通と食事で得点の高い生徒は，すべての身体部分で症状を訴えている。食事が不規則であり，また質的・栄養的内部も乏しいことが伺われ，そのことが便通がよくないこととつながっているようだ。

睡眠時間では泌尿器の訴えに有意な相関関係が，寝付きでは胸部との間に有意な相関関係がみられた。また睡眠の質では腹部，泌尿器系以外すべてに有意な相関関係がみられた。

食事・睡眠・便通では，生活習慣の乱れが，多くの症状を訴える事態を引き起こしていると考えられる。「睡眠質」因子の得点の高い者が多くの部位で症状を訴えていたことについては，身体を3時間以上使うような生活をしていない，つまり運動不足により引き起こされている可能性がある。

しかし生活習慣はその個人の責任においてのみとくられるわけではなく，家庭での基本的な生活に対する考え方や習慣が子どもの生活に反映されていると考えられる。このことは診察室を訪れる親子ともどもが，「挨拶しない」・「敬語が使えない」・「自分の症状を正確に伝えられない」・「親だけが決める」・「大した症状ではないのに親子ともどもパニックに近い反応を起こす」・「子どもが待合室や診察室で騒いでも親は決して注意しない」などと筆者の診察所において観察されていることからも明瞭に伺える。

従って，生徒に表れる症状（問題）やその解決には，家庭においても認識され，家族で取り組むべきであろう。

まとめ

普通に通学している高校生を対象に心身をめぐる健康調査を実施したところ，おおよそ健全な高校生活を送っていると思われる良好な結果を示した。慢性疾患で長期的に医療機関にかかっているようなケースはなかったが，回答された自覚症状をもとに性格や生活習慣等との関連性を分析したところ，次のような結果が得られた。

身体に表れた症状は器質的疾患によるものよりも，受験を控えた社会生活上のストレス，家庭環境，性格や考え方などからくる自律神経の調節機能の失調（機能的疾患）に起因しているように推察された。

「性格や考え方」によって症状の現れる（気になる）身体部位は，異なる傾向がみられることが明らかになった。また「親子関係で問題のある」，あるいは「便通・食事・睡眠の質」といった基本的な生活習慣で問題のある者が多くの部位で身体症状を訴える傾向にあり，これらの問題を改善することで心身の状況が改善される可能性が示唆された。

今後，質問項目の検討を含めさらに調査分析をすすめ，心や身体に表れる症状とその原因について
て明らかにしていく必要があると考えられる。

参考文献
正木健雄（2002） 正木健雄選集 希望の体育学 正木健雄選集編集委員会編 農山漁村文化協会
宮下充正（2006） 子どもの身体活動能力と教育 子どもと発育発達 4(1) 45-51
宮下充正（2007） 子どもの運動不足は世界的傾向か？ 体育の科学 57(4) 313-320
日本心身医学会教育研修委員会編（1991）心身医学の新しい診療指針 心身医学31 537
厚生労働省大臣官房統計情報部 社会統計課国民生活基礎調査室 国民生活基礎調査「健康票」
http://www.mhlw.go.jp/
二宮恒夫（2000）小児科でみられる心身症 四国医学雑誌 56(2) 40-45
斎藤 孝（2000）身体感覚を取り戻す 腰・ハラ文化の再生 日本放送出版協会
原田奈名子（1999） 一緒に動く 体育科教育(1) 68-71
久保 健 他（2001）「からだ」を生きる - 身体・感覚・動きをひらく5つの提案 - 創文企画
奈良雅之（2004） 大学体育における「からだ気づき」の実践に関する事例研究 大学体育学(1) 43-50